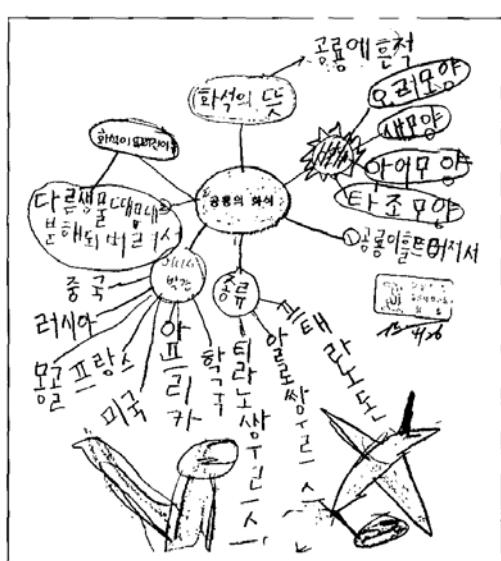


ヨンフン初等学校における「ウェビング手法」を用いた総合学習

上智大学 加藤幸次

ヨンフン(泳薰)初等学校はソウル市にある私立小学校である。地下鉄6号線に乗って第16番駅(ミヤサングリ)で降りると、徒歩5分とはからないところにある。中学・高等学校も併設されているヨンフン学園に属する。

校長は朴性芳先生で、アメリカに長く住み、アメリカで教職に就いた経験のある方である。また、小学校6年まで戦前の京城教育大学附属小学校に学ばれたので、日本語も出来る方である。彼女は十数年前、私たちとコンタクトを持ち、自分の学校のオープン・スクール化をめざした。まず、廊下の壁を取り払い、絨毯を敷いて廊下と教室の一体化をはかった。さらに、校舎の外まわりに廊下を出し、新しい体育館も加え、子どもたちが好む緑と黄色で外壁を塗り替えた。もちろん、チーム・ティーチングを行い、学級規模を30人に縮小し、コンピュータを導入して、教育内容や方法の改革に励んできている。今では、韓国全体のモデル校である。



11月の初めに訪問した。見たものは、まさに「総合学習」であった。すべての学年で、まず、教師が1つのテーマについて「ウェビング」で描いて指導案を作成する。そのときのねらいは「合科」することにある。そのテーマがどの教科の内容と関わっているかをはっきりさせるためにウェビング手法が用いられていた。なぜなら、韓国には総合学習の時間ではなく、教科を再構成して、すなわち、合科して総合学習を生み出さねばならないからである。

他方、子どもたちも、グループあるいは一人ひとり、与えられたテーマについてウェビングを行っている。この例は1年生の子が「恐竜」についてウェビングしたものである。明らかに、この子は「恐竜の化石」について調べようとしていることがわかる。

恐竜として「プロテラノドン、アルノザウルス、チラノザウルス」、また、発見された場所として「アメリカ、中国、ロシア、アフリカ」などを調べるとある。恐竜を描くことも言っている。「化石・足跡」など意味がはっきりしない部分もあるが、恐竜についてイメージを膨らませると同時に、自分の行いたい活動を描いている。実際の学習は「学習シート」が用意されていて、恐竜を描く活動が主な活動となっている。

最近の韓国では、やはり、総合学習の関心が高く、いろいろなところで話題になっているという。しかし、授業の実際になるとほとんど実践されていないようで、このヨンフン初等学校でも、英語指導をしているアメリカ人教師たちによって計画され、英語指導の一環として、こうした「テーマ学習」が行われているのである。